

令和 6 年度 第 2 回大和市文化芸術振興審議会 会議要旨

1. 日 時 令和 6 年 8 月 2 7 日（火） 1 0 : 0 0
2. 出席状況 委 員 1 0 名（川染会長、青木委員、明吉委員、井上委員、加藤委員、
小須田委員、小林委員、篠原委員、泉水委員、橋本委員）
事務局 6 名（文化スポーツ部長、文化振興課長、文化振興係 4 名）
3. 傍聴人 傍聴人なし
4. 議 題
 - 1 開会
 - 2 会長、職務代理者の選出
 - 3 審議会の役割について
 - 4 報告事項
 - （1）文化芸術活動支援補助金およびやまと芸術文化ホール開放事業（舞台の部）の
選考結果について
 - 5 審議事項
 - （1）文化芸術振興基本計画[第 4 期]の策定について
 - （2）文化芸術の振興のための顕彰事案について
 - 6 その他
 - 7 閉会
5. 会議資料
 - 資料 1－1 大和市文化芸術振興審議会について
 - 資料 1－2 審議会の公開及び会議録の公表等について
 - 資料 2 文化芸術活動支援補助金およびやまと芸術文化ホール開放事業（舞台の部）
（令和 7 年度事業分）選考結果について
 - 資料 3－1 大和市文化芸術振興基本計画[第 4 期]たたき台
 - 資料 3－2 大和市文化芸術振興基本計画[第 4 期]策定の会議スケジュール（予定）
 - 資料 3－3 大和市文化芸術振興基本計画[第 4 期]策定についての意見
 - 資料 4－1 令和 6 年度大和市文化芸術顕彰候補者について
 - 資料 4－2 令和 6 年度大和市文化芸術顕彰候補者選定外参考資料

【会議要旨】

- 1 開会
- 2 会長、職務代理者の選出
○委員の互選により、会長に川染委員が選出され、職務代理者に小林三夫委員が指名された。
- 3 審議会の役割について
○市から、「大和市文化芸術振興審議会について」を説明。委員名の公表、会議の公開、傍聴
などについて確認した。
○会議録については、要点を取りまとめ、公開することが確認された。

4 報告事項

(1) 文化芸術活動支援補助金およびやまと芸術文化ホール開放事業（舞台の部）の 選考結果について

○市から、「文化芸術活動支援補助金およびやまと芸術文化ホール開放事業（舞台の部）の選考結果について」を説明。

【意見交換】

- | | |
|-----|---|
| 委員 | 文化芸術活動支援補助金の名称を変更した理由は。内容にも変更はあるか。 |
| 事務局 | 当該補助金は文化芸術の分野に支給している。しかし、生涯学習という言葉の定義は広く、文化芸術だけでなくスポーツなどにも及ぶ。このため、わかりやすい名称へ変更することとした。内容に変更はない。 |
| 委員 | 補助金の支給総額に上限はあるか。 |
| 事務局 | 現在、明確な定めはない。今後、状況によっては上限額を定める可能性もある。 |
| 委員 | 寄附募集において広報をしているか。 |
| 事務局 | イベントのポスター・チラシに掲載しているほか、大和市全体としてPRをしている。 |
| 委員 | 補助団体から収支報告をもらっているか。 |
| 事務局 | 要綱に基づき、事業終了後に実績報告書を提出してもらっている。 |
| 委員 | ホール開放事業についてももう少し詳しく説明してほしい。 |
| 事務局 | 昨年までは大和市民芸術祭として、実行委員会方式でイベントを行っていたが、より多くの市民に企画運営に携わってほしいという思いがあり、企画内容からを市民に公募することになった。選考では、企画の魅力・団体が自立した運営をできるかなどを重視した。 |
| 委員 | 将来、1日に2団体以上の企画を採用する可能性はあるか。 |
| 委員 | 団体同士の融合で新たな発想の企画が生まれるのもよいかもしれない。 |
| 事務局 | 状況によっては可能。そういった形式を含め、応募団体から企画を提案していただきたい。今回、異なる2団体が合同で企画し、実行委員会形式にした応募もあった。 |

5 審議事項

(1) 文化芸術振興基本計画[第4期]の策定について

○市から、「文化芸術振興基本計画[第4期]の策定について」を説明。

【意見交換】

- | | |
|-----|--|
| 委員 | 資料3-1について、令和6年の目標値が80%、令和11年の目標値が65%と記載されている。令和11年の目標値はどのような理由で設定されたか。 |
| 事務局 | 65%はこれまでの最大値。P26の数値の設定理由については、後日改めて説明する。 |
| 委員 | 学校教育との連携、情報共有をしているか。 |
| 事務局 | 庁内検討会議に指導室が参加している。文化芸術振興審議会で出た意見を情報共有している。 |
| 委員 | 特に文化芸術は、定量的評価だけではなく定性的な評価も必要かもしれない。 |

委員	シリウスでこどものための楽器体験やバリアフリーコンサートなどが行われており、子どもたちの教育に良い影響を与えている。このような企画をこれからも続けてほしい。教育は学校だけのことではない。
委員	市立中学校には文化部が少ない。渋谷中学校だけでなく、他の中学校でも、やまと伝統文化塾との連携をできないか。
事務局	学校側の事情もあるが、やまと伝統文化塾には中高生対象のものもある。伝統文化の中級以上は用具の準備などで費用が多くかかる。中級以上の活動をどう広げるか、今後検討していきたい。
委員	教員の働き方改革とのバランスが難しい。国全体の環境整備が必要。
委員	P19のホール運営に携わる人材育成事業の実施について、昭和音楽大学も協力できるかもしれない。

(2) 文化芸術の振興のための顕彰事案について

○市から、「文化芸術の振興のための顕彰事案について」を説明。

— 大和市情報公開条例第7条第3号に該当するため非公開 —

6 その他

○市から、「文化創造拠点等運営審議会の委員選出」について説明。

今年度から、審議会を代表して小須田委員に出席いただくことを承認。

○市から、次回の文化芸術振興審議会開催日程について説明。

○委員より、自身の活動について説明。

7 閉会